

3 . 護 岸 コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク の 製 作 管 理 基 準

検指第334号
平成11年 4月 1日 制定

護岸コンクリートブロック
の
製
作
管
理
基
準

護岸コンクリートブロックの製作管理基準

1. 適用範囲

この基準は、神奈川県内の河川工事に使用する護岸用コンクリートブロック（以下「コンクリートブロック」という。）の製作に適用する。

2. コンクリートの配合

コンクリートブロックの製作に使用するコンクリートは、下記に定める品質を満足し、常に工程が安定するよう、材料、機械設備、器具等を管理しなければならない。

粗骨材の最大寸法	水セメント比	空気量	圧縮強度	単位容積重量
40mm以下	55%以下	4 ± 1%	180kgf/cm ² 以上 (17.7N/cm ²)	2,250kg/m ³ 以上

3. 品質管理基準及び規格値

コンクリートブロックの製作に関する試験項目は、下記のとおりとする。また、製作上使用するコンクリートの管理図、配合表等は、監督員が請求した場合は、提出しなければならない。

種別	試験項目	試験方法、測定項目	規格値	試験基準、測定基準		
工	骨材の粒度	JIS A 1102		必要に応じて		
	細骨材の表面水量	JIS A 1111		午前・午後各1回		
	骨材の安定性	JIS A 1122		産地の変わる都度		
	スランプ	JIS A 1101		午前・午後各1回		
	空気量	JIS A 1128				
	場	圧縮強度	JIS A 1108	180kgf/cm ² 以上 (17.7N/mm ²)	1回3本/日	
単位容積重量		JIS A 1116	2,250kg/m ³ 以上	1回3本/日 (圧縮強度試験用供試体を用いて求めてもよい)		
施	外観	目視	1による	全数行なう。		
	圧縮強度	参考資料による	180kgf/cm ² 以上 (17.7N/mm ²)	同種のコンクリートブロック1,000個又は、その端数を1組とし、1組について任意に3個を抜き取り測定し、2個以上適合しなければならない。又、1個だけ適合の場合は、不適合のコンクリートブロックを除き、その組から更に任意の6個を抜き取り測定し、全数適合すればよい。		
	単位容積重量		2,250kg/m ³ 以上			
	工	形状寸法	間知ブロック		面	+ 5mm - 3mm
					控	+ 10mm - 5mm
			平ブロック		面	+ 5mm - 3mm
					厚	± 5mm
		連節ブロック	面		+ 5mm - 3mm	
			厚		+ 10mm - 5mm	

1 外観は、その質が密で、有害なきずがなく、上面は平で外観がよくなければならない。

4. 標 示

コンクリートブロックには、裏面又は適当な箇所に次の事項を明記しなければならない。

- (1) 製造工場名又は略号
- (2) 製造年月日

5. そ の 他

JIS規格指定工場においてJIS規格製品又はこれに準じて製作した製品(平ブロック、連節ブロック等)の品質管理基準及び規格値については、監督員の承諾をえてミルシートに代えることが出来る。

参考資料

シュミットハンマーによる コンクリートブロックの圧縮強度の算出

シュミットハンマーを用いてコンクリートブロックの反発硬度を測定し、圧縮強度を算出する。又、監督員より指示があった場合は、コアによる圧縮強度試験も行わなければならない。

なお、シュミットハンマーによる反発硬度の測定は、下記の要領で行う。

(1) 反発硬度の測定箇所

測定面は、型枠に接していた面で、質が均一でモルタルでおおわれた平滑な平面部を選定する。

(2) 反発硬度の測定

反発硬度の測定に使用するコンクリートブロックは、24時間水中に浸漬し、測定開始直前に水中から取り出し、水をふき取り直ちに測定する。

測定面は測定に先立ち十分に清掃する。

コンクリートブロックは、測定の影響のないように確実に固定する。

シュミットハンマーの打撃方向は、常に測定面に直角とし、徐々に力を加えて打撃をおこさせ測定する。

測定箇所は、コンクリートブロックの縁端から3cm以上入ったところで、互い3cm以上の間隔をもった12点について測定し、この測定値の最大と最小の測定値を除く、10点の測定値の算術平均を反発硬度とする。

ただし、明らかに異状と認められる測定値又は、その偏差が平均値の約20%以下になる測定値があれば、この測定値を除き、これに代わるものを測定することができる。